

平成 21 年度水資源セミナーのご案内

[平成 21 年度防災研究推進特別事業 公開研究集会 (SD21-04)]

「流域環境の保全再生・持続的利用・減災を統合的に管理するための研究課題」

開催趣旨：

【背景】：河川、湖沼、内湾は各種生態系サービスを通じて地域文化を支えてきた。これらの水域は水物質循環の結節点であり、社会システムの影響を最も受けやすい特性がある。したがって、各種水利用や防災・減災対策を進める際に、生態系を劣化させないことを目標とする流域管理システムを構築する必要がある。とくに都市域を流域に抱える地域では、気象や水・物質循環の顕著な変化を生じており、広い地域にまたがる流域管理方式の見直しが求められている。実際に各地の河川審議会や流域委員会等の場で環境・治水・利水の統合的管理の方策が議論されるようになった。しかし、これらを具体的施策に反映するためには、未だ思想的、技術的、組織的、経済的、法的な多くの課題が残されている。その中には、科学的知見の蓄積が不十分であるものや方法そのものを学問的に追究する必要がある課題も含まれている。

【目的と目標】：本研究集会は、水資源学、水産資源学、生態学、土砂水理学、土木計画学、防災学、政策学、法学の研究者が一堂に会し、上記研究課題を再認識することを目的とした。このため、各分野を代表する研究者に「河川の氾濫原域のように集約的な土地利用が進んでいる地域における流域環境の保全再生・持続的利用・減災を統合的に管理するため研究課題」についてご講演やコメントをお願いした。今後どのような研究課題を追究していく必要があるかについて専門分野ごとのあるいは分野横断的な視点から呈示することや、連繋が強化されるべき分野などについて討議することを目標としている。

開催日：10月22日(木) 10:30-17:30 研究集会(参加費無料)

開催場所：京都駅前：メルパルク KYOTO 会議室 B(講演会)・会議室 D(懇親会)

【プログラム】(講演は30分+10分質疑)：

午前司会：角 哲也(京大防災研・水資源環境研究センター)

10:30-10:35 開会の辞(5分)

小尻利治(京大防災研・水資源環境研究センター)

10:35-10:40 趣旨説明(5分)

竹門康弘(京大防災研・水資源環境研究センター)

10:40-11:20 「氾濫原環境の水産資源が持続的に生存できる条件」

岩田明久(京都大学大学院・アジア・アフリカ地域研究研究科)

11:20-12:00 「流域生態系の保全から再生へ：淡水魚類の生息適地評価システム」

亀山 哲(国立環境研究所・アジア自然共生研究グループ)

12:00-13:00 昼食休憩

午後前半司会：田中賢治(京大防災研・水資源環境研究センター)

13:00-13:40 「都市河川における河川利用と生態系の共生に関する数理モデル分析」

坂本麻衣子(長崎大学・工学部)

13:40-14:20 「統合的湖沼流域管理：現状と今後の課題」

中村正久(滋賀大学・環境総合センター)

14:20-15:00 「流域の統合的管理を実現するための法的な課題」

磯村篤範(島根大学大学院・法務研究科)

15:00-15:20 休憩

午後後半司会：堀 智晴(京大防災研・水資源環境研究センター)

15:20-16:00 「気候変動下における水文環境システムの課題」

鈴木 靖(水文環境システム(日本気象協会)研究領域 教授)

16:00-16:20 「防災・減災研究の観点から」(15分コメント+5分質疑)

實 馨(京大防災研・社会防災研究部門・防災政策研究分野)

16:20-16:40 「土砂資源研究の観点から」(15分コメント+5分質疑)

藤田正治(京大防災研・流域災害研究センター・流砂災害研究領域)

16:40-17:00 「水資源研究の観点から」(15分コメント+5分質疑)

角 哲也(京大防災研・水資源環境研究センター)

17:00-17:15 総括(10分+5分質疑)

堀 智晴(京大防災研・水資源環境研究センター)

17:15-17:20 閉会の辞(5分)

實 馨(京大防災研副所長)

18:00-20:00 懇親会(メルパルク KYOTO 会議室 D) 会費 ¥4,000

【参加申込み要領・問い合わせ先】

参加ご希望の方は、E-mailにて、氏名・ふりがな・連絡先(所属・住所・TEL・FAX・E-mail)・研究集会と懇親会それぞれの参加希望の有無をご記載の上、以下のアドレスまでお申し込み下さい。

〒611-0011 宇治市五ヶ庄

京都大学防災研究所水資源環境研究センター

E-mail：seminar09@wrcs.dpri.kyoto-u.ac.jp